

サイエンスミュージアムネット

データ変換ツール
利用者向けマニュアル

2020 年 6 月
国立科学博物館

改版履歴

版	改版日付	改版内容	備考
1.0	2018/03/13	初版作成	インフォコム株式会社
1.1	2018/03/29	「4.1 S-Net 形式のデータ項目について」修正	インフォコム株式会社
1.2	2018/05/11	全体を見直し修正	国立科学博物館
1.3	2018/06/20	「4.1 S-Net 形式のデータ項目について」を一部修正	国立科学博物館
1.4	2018/11/07	Excel オプションの保存形式について補足を追加 トラブルシューティングに Visual Basic のエラー発生時の対応について追加	国立科学博物館
1.5	2018/11/27	Excel 形式の入力ファイルのフィルタについて補足を追加 トラブルシューティングに環境情報の提供依頼と報告済みのエラーの情報を追加	国立科学博物館
1.6	2019/01/15	トラブルシューティングに Visual Basic コンパイルエラーの情報を追加	国立科学博物館
1.7	2019/01/25	「3.トラブルシューティング」に「3.1.4 その他のトラブル」を追加	国立科学博物館
1.8	2019/02/06	トラブルシューティングに拡張子が大文字の入力ファイルに対する警告の情報を追加	国立科学博物館
1.9	2020/02/06	トラブルシューティングに入力ファイル項目名が S-Net 項目名と異なると形式が正しくないという警告となる情報を追加	国立科学博物館
1.10	2020/06/30	「2 データ変換ツールを利用する」に説明を追加 「4.1 S-Net 形式のデータ項目について」にデータ型と補足説明を追加	国立科学博物館

目次

1	はじめに	4
1.1	目的	4
1.2	全体の流れ	4
2	データ変換ツールを利用する	5
2.1	データ変換ツールについて	5
2.2	データ変換ツールをインストールする	5
2.3	変換元データを用意する	6
2.4	マッピング(データ項目の割り当て)する	7
2.5	データクリーニング	10
2.6	データ検証	11
2.7	データ変換における注意事項	12
3	トラブルシューティング	13
3.1	各種トラブルと対処法	13
3.1.1	メッセージレベルが「警告」の場合	13
3.1.2	メッセージレベルが「エラー」の場合	13
3.1.3	Visual Basic のエラーが発生した場合	14
3.1.4	その他のトラブル	16
4	その他	17
4.1	S-Net 形式のデータ項目について	17

1 はじめに

1.1 目的

データ変換ツールは、保有しているデータを S-Net システム対応の項目に変換するためのツールです。

データ変換ツールでは、S-Net システム対応項目への変換に加え、データクリーニング及びデータフォーマットのチェックも同時に行います。

1.2 全体の流れ

データ変換までの流れは以下の通りになります。

1. データ変換ツールをインストールします。
2. 変換元データを用意します。
3. データ変換ツールで、S-Net システム対応の項目へマッピングを行います。
4. データ変換ツールでデータの変換を行います。

2 データ変換ツールを利用する

2.1 データ変換ツールについて

データ変換ツールでは、既に保有しているデータを S-Net 形式のデータに変換することができます。

データ変換ツールで提供する主な機能は以下の通りです。

機能	説明
データマッピング（データ項目の割り当て）機能	標本データを S-Net 形式のデータに変換します。 ※データ変換前に、データクリーニングとデータ検証を行います。
データクリーニング機能	データクリーニングでは以下の処理を行います。 ・各項目のデータ前後にある半角・全角スペース、タブ、改行コードの削除 ・半角カナを全角カナに変換 ・半角英数字指定のフィールドに全角英数字・記号・スペースが存在した場合、対応する半角文字に変換 ・データ内に挿入されている改行記号・タブ文字を半角スペースに変換 ・連続するスペースを 1 文字のスペースに変換
データ検証機能	各項目が S-Net システムの形式のフォーマットかどうか、値の範囲が正しいかなどをチェックします。エラーが検出された場合は、エラー項目が赤でマーキングされ、エラー件数とエラー内容が付加されたデータ検証レポートが出力されます。

データ変換ツールでは Excel ブック（*.xlsx）形式でファイルを書き出します。変換ツールの実行前に Excel のオプションで保存形式が「Excel ブック（*.xlsx）」であることを確認しておいてください。保存形式が「Excel97-2003 ブック（*.xls）」など異なる形式の場合はエラーになってしまいます。

2.2 データ変換ツールをインストールする

データ変換ツール「データ変換ツール.xlsm」を S-Net サイト（<http://science-net.kahaku.go.jp>）からダウンロードします。

以前にインストールしている場合もバージョンを確認し、なるべく最新のバージョンのツールをご利用ください。

ローカル PC の適当なフォルダへ配置します。



2.3 変換元データを用意する

変換元のデータを以下のフォーマットで用意する必要があります。

フォーマット情報	フォーマットの説明
ファイル形式（拡張子）	Excel ブック（.xlsx）、カンマ区切り（.csv）
文字コード	UTF-8、Shift-JIS
先頭行	項目名
2 行目以降	データ行（1 行 1 標本）

※1 ファイル 1 データセットとしてください。

※変換元のデータの項目名は任意ですが、S-Net システム登録用の項目名と同じ名前にするとデータ変換ツールで自動的に初期マッピング（データ項目の割り当て）が行われます。

※S-Net システム登録用のデータフォーマットについては「4.1 S-Net 形式のデータ項目について」を参照してください。

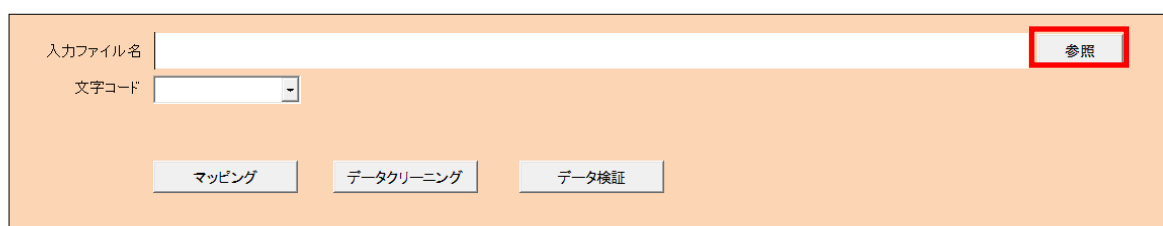
※変換元のデータが Excel ブック形式（.xlsx）のとき、フィルタを使った絞り込みが行われているとマッピングの実行でエラーとなります。Excel の並べ替えとフィルタから「クリア」を選択して、フィルタによる絞り込みを解除しておいてください。

2.4 マッピング（データ項目の割り当て）する

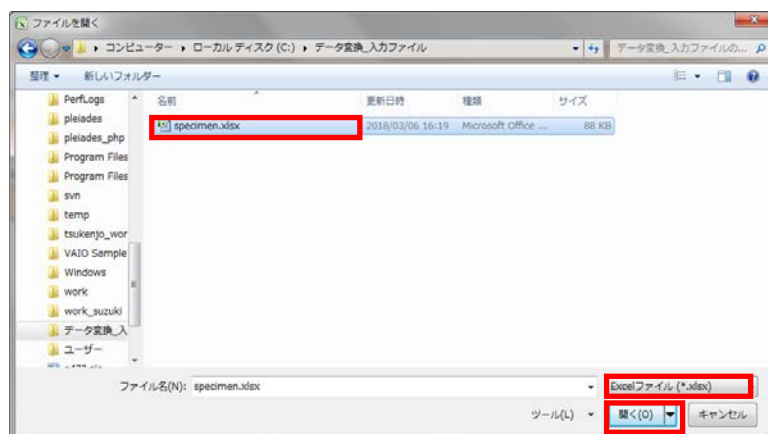
マッピングとは、元のファイルのどの項目が提出用ファイルのどのデータ項目に当たるのかを割り当てる作業です。この対応情報はデータ変換ツールのxlsmファイル上に記録されます。インストールした「データ変換ツール.xlsm」をコピーして名前を変更し、変換元データごとに決めた専用のデータ変換ツールファイルを用意してください（たとえば、「データ変換ツール_植物コレクション用.xlsm」など）。変換元データ用のデータ変換ツールダブルクリックすることで、変換ツールが起動します。

- ① 標本データ変換画面：「参照」ボタンをクリックします。

標本データ変換



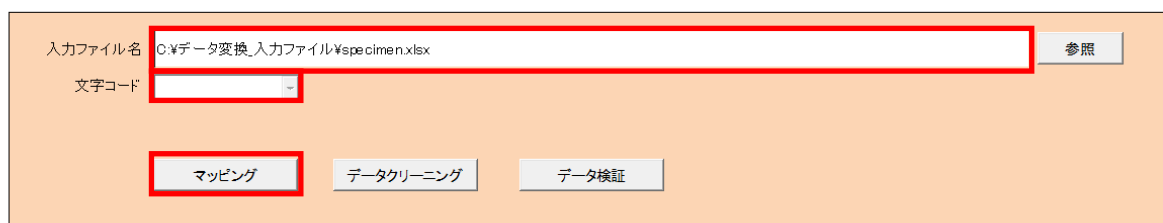
- ② ファイルダイアログ：ファイルを選択して、「開く」ボタンをクリックします。



- ③ 選択したファイル名が反映される。文字コードを選択して、「マッピング」ボタンをクリックします。

※Excel ファイル（.xlsx）を選択した場合は、文字コードの選択は不要です。

標本データ変換



④ 項目マッピング画面：初期表示

S-Net 項目名と入力ファイル項目名が一致した場合は、「入力ファイル項目名」へ項目名が自動的に設定されます。

一致しない場合は、手動でマッピングします。

※手動マッピングの方法：「入力ファイル項目名」のプルダウンメニューから S-Net 項目名に該当する項目名を選択します。

項目マッピング

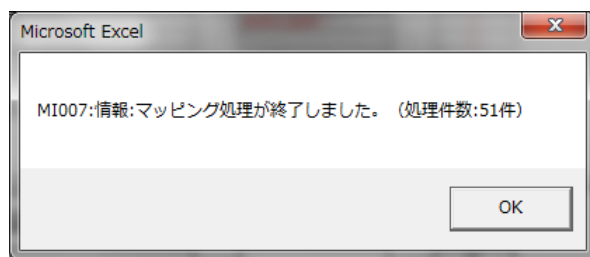
<div>実行</div> <div>設定保存</div> <div>設定読み込み</div>		マッピング処理を実行し、S-Net形式のファイルを作成します。 現在のマッピング情報を保存します。 保存したマッピング情報を読み込みます。	<div>表示</div> <div>非表示</div>	非表示となっている項目を全て表示します。 表示項目に○が付いていない項目を非表示にします。	伏隠: 表示	赤文字: マッピング必須項目
---	--	---	------------------------------	--	--------	----------------

分類	S-Net項目名	データ型	項目説明	入力ファイル項目名	値の直接入力	表示項目
システム管理情報	管理ID	整数		管理ID		<input type="radio"/>
システム管理情報	データセット管理番号	整数		データセット管理番号		<input type="radio"/>
システム管理情報	登録日時	日時		登録日時		<input type="radio"/>
システム管理情報	更新日時	日時		更新日時		<input type="radio"/>
システム管理情報	グローバルユニーク番号	文字列(半角英数字)		グローバルユニーク番号		<input type="radio"/>
基本情報	データ登録日時	日時		データ登録日時		<input type="radio"/>
基本情報	GBIF公開フラグ	論理(真偽)型		GBIF公開フラグ		<input type="radio"/>
基本情報	レコード種別	文字列(半角英数字)		直接入力		<input type="radio"/>
基本情報	機関名	文字列(日本語可)		機関名		<input type="radio"/>
基本情報	機関名(日本語)	文字列(日本語可)		機関名(日本語)		<input type="radio"/>
基本情報	機関コード	文字列(半角英数字)		機関コード		<input type="radio"/>
基本情報	コレクションコード	文字列(半角英数字)		コレクションコード		<input type="radio"/>
基本情報	カタログ番号	文字列(半角英数字)		カタログ番号		<input type="radio"/>
オカルシス情報	採集番号	文字列(半角英数字)		採集番号		<input type="radio"/>
オカルシス情報	オカルシス備考	文字列(半角英数字)		オカルシス備考		<input type="radio"/>
オカルシス情報	オカルシス備考(日本語)	文字列(日本語可)		オカルシス備考(日本語)		<input type="radio"/>
オカルシス情報	性別	文字列(半角英数字)		性別		<input type="radio"/>
オカルシス情報	性別(日本語)	文字列(日本語可)		性別(日本語)		<input type="radio"/>
オカルシス情報	生活型・世代型	文字列(半角英数字)		生活型・世代型		<input type="radio"/>
オカルシス情報	生活型・世代型(日本語)	文字列(日本語可)		生活型・世代型(日本語)		<input type="radio"/>
オカルシス情報	成熟状況	文字列(半角英数字)		成熟状況		<input type="radio"/>
オカルシス情報	成熟状況(日本語)	文字列(日本語可)		成熟状況(日本語)		<input type="radio"/>

項目マッピング画面：各ボタンの説明

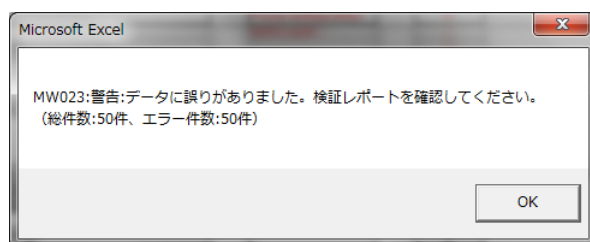
No	機能	内容
1	「実行」ボタン	現在のマッピング情報を基に S-Net 形式ファイルを作成します。 ※実行後「データクリーニング」と「データ検証」が自動的に行われます。データのフォーマット等に問題があった場合は検証レポートが出力されます。
2	「設定保存」ボタン	現在のマッピング情報を保存します。 ※次回以降変換ツールを利用される場合、変換ツールのファイルを保存することによって、設定したマッピング情報を再度利用することが可能です。
3	「設定読み込み」ボタン	保存したマッピング情報を読み込みます。
4	「表示」ボタン	非表示となっている項目を全て表示します。
5	「非表示」ボタン	表示項目に○が付いていない項目を非表示にします。

⑤ 「実行」ボタンクリック後、データクリーニングとデータ検証が行われ、（エラーデータなしの場合）S-Net 形式の登録データファイルに変換されて、完了メッセージが出力されます。
完了メッセージの出力後、登録データを保存できます。



- ⑥ 「実行」ボタンクリック後、データクリーニングとデータ検証が行われ、（エラーデータありの場合）検証レポートが作られ、エラー情報のメッセージが出力されます。

エラー情報メッセージの出力後、検証レポートが保存できます。



例) : 検証レポート出力例

エラー件数	エラー内容	管理ID	データセット管理番号	登録日時	更新日時	メッセージコード	緯度(十進数表記)	経度(十進数表記)	測地系	緯度経度誤差半値	緯度経度特定に関する備考
2	MW019 警告 緯度(十進数表記) -90以上90以内で入力してください。MW019 警告 経度(十進数表記) -180以上180以内で入力してください。					910	150	251	GadeticD	1.01	Georeferen
2	MW019 警告 緯度(十進数表記) -90以上90以内で入力してください。MW019 警告 経度(十進数表記) -180以上180以内で入力してください。					910	150	252	GadeticD	1.02	Georeferen
2	MW019 警告 緯度(十進数表記) -90以上90以内で入力してください。MW019 警告 経度(十進数表記) -180以上180以内で入力してください。					910	153	253	GadeticD	1.03	Georeferen
2	MW019 警告 緯度(十進数表記) -90以上90以内で入力してください。MW019 警告 経度(十進数表記) -180以上180以内で入力してください。					910	154	254	GadeticD	1.04	Georeferen
2	MW019 警告 緯度(十進数表記) -90以上90以内で入力してください。MW019 警告 経度(十進数表記) -180以上180以内で入力してください。					910	155	255	GadeticD	1.05	Georeferen
2	MW019 警告 緯度(十進数表記) -90以上90以内で入力してください。MW019 警告 経度(十進数表記) -180以上180以内で入力してください。					910	156	256	GadeticD	1.06	Georeferen
2	MW019 警告 緯度(十進数表記) -90以上90以内で入力してください。MW019 警告 経度(十進数表記) -180以上180以内で入力してください。					910	157	257	GadeticD	1.07	Georeferen
2	MW019 警告 緯度(十進数表記) -90以上90以内で入力してください。MW019 警告 経度(十進数表記) -180以上180以内で入力してください。					910	158	258	GadeticD	1.08	Georeferen
2	MW019 警告 緯度(十進数表記) -90以上90以内で入力してください。MW019 警告 経度(十進数表記) -180以上180以内で入力してください。					910	159	259	GadeticD	1.09	Georeferen
2	MW019 警告 緯度(十進数表記) -90以上90以内で入力してください。MW019 警告 経度(十進数表記) -180以上180以内で入力してください。					910	160	260	GadeticD	1.10	Georeferen
2	MW019 警告 緯度(十進数表記) -90以上90以内で入力してください。MW019 警告 経度(十進数表記) -180以上180以内で入力してください。					910	161	261	GadeticD	1.11	Georeferen
2	MW019 警告 緯度(十進数表記) -90以上90以内で入力してください。MW019 警告 経度(十進数表記) -180以上180以内で入力してください。					910	162	262	GadeticD	1.12	Georeferen
2	MW019 警告 緯度(十進数表記) -90以上90以内で入力してください。MW019 警告 経度(十進数表記) -180以上180以内で入力してください。					910	163	263	GadeticD	1.13	Georeferen
2	MW019 警告 緯度(十進数表記) -90以上90以内で入力してください。MW019 警告 経度(十進数表記) -180以上180以内で入力してください。					910	164	264	GadeticD	1.14	Georeferen
2	MW019 警告 緯度(十進数表記) -90以上90以内で入力してください。MW019 警告 経度(十進数表記) -180以上180以内で入力してください。					910	165	265	GadeticD	1.15	Georeferen
2	MW019 警告 緯度(十進数表記) -90以上90以内で入力してください。MW019 警告 経度(十進数表記) -180以上180以内で入力してください。					910	166	266	GadeticD	1.16	Georeferen
2	MW019 警告 緯度(十進数表記) -90以上90以内で入力してください。MW019 警告 経度(十進数表記) -180以上180以内で入力してください。					910	167	267	GadeticD	1.17	Georeferen
2	MW019 警告 緯度(十進数表記) -90以上90以内で入力してください。MW019 警告 経度(十進数表記) -180以上180以内で入力してください。					910	168	268	GadeticD	1.18	Georeferen

※1

※2

※3

No	内容
1	レコード別にエラー件数が出力されます。
2	レコード別にエラーの内容が出力されます。
3	エラーデータのセルが赤色の背景色で表示されます。

- ⑦ 検証したレポートをもとにして、データをチェックしてください。

なお、変換ツールでチェックできるのは、データ形式の間違い（半角数字の項目に全角文字が使用されている、など）や値の範囲の誤りなどのエラーに限られます。学名などの文字列データの項目において、綴りが間違っている、カタカナ表記にひらがなの文字が混在しているなどのエラーは検出できませんので、これらの項目のエラーについては、自己責任で管理をお願いします。

2.5 データクリーニング

データクリーニングでは、S-Net 形式のファイル（データ変換後の登録データの形式のファイル）に対し、各項目から余分な空白やタブなどを取り除くなどのデータのクリーニング処理を個別に行うことができます。

マッピングで出力された登録データファイルに対し変更を加えた場合には、余分な空白が増えている可能性もあります。この機能を実行すると確実にデータをクリーニングできます。なお、変更後に再度、マッピングを行う場合はマッピングでデータクリーニングとデータ検証が行われますので、個別に行う必要はありません。

※データクリーニングで行われる処理については、「2.1 データ変換ツールについて」を参照してください。

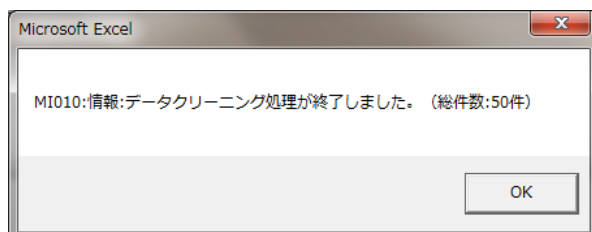
- ① 標本データ変換：「データクリーニング」ボタンをクリックします。

標本データ変換



- ② ファイル出力（データクリーニング済）

完了メッセージが出力され、クリーニング済みのファイルが出力されます。



2.6 データ検証

データ検証では、S-Net 形式のファイル（データ変換後の登録データの形式のファイル）に対し、各項目が S-Net システムの形式のフォーマットかどうか、値の範囲が正しいかなどをチェックするデータ検証を個別に行うことができます。

この機能はマッピングで出力された登録データファイルに対し変更を加えた場合、新たにエラーとなった項目がないかどうかチェックするのに有効です。なお、変更後に再度、マッピングを行う場合はマッピングでデータクリーニングとデータ検証が行われますので、個別に行う必要はありません。

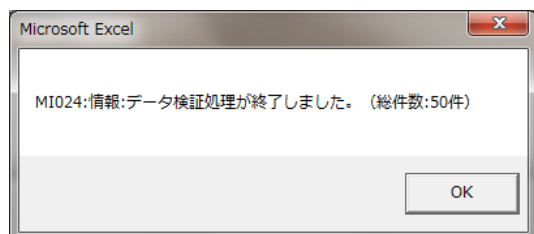
- ① 標本データ変換画面：「データ検証」ボタンをクリックします。

標本データ変換



- ② ファイル出力（データ検証済）

完了メッセージが出力され、エラーがある場合は検証レポートが出力されます。



検証レポートの内容については、「2.4 マッピング（データ項目の割り当て）する」の⑥を参照してください。

2.7 データ変換における注意事項

- Microsoft Excel 2010, 2013, 2016 をご利用ください。
- データ変換ツールを使用する際は、Excel の保存形式のオプションは「Excel ブック (*.xlsx) 」としてください。
Excel97-2003 ブック (*.xls) など他の形式の場合は処理が正しく行われません。
- Excel 2016 は本来の変換ツールの保証範囲外ですが、事務局においては正常に作動しました。

3 トラブルシューティング

3.1 各種トラブルと対処法

本ツール使用時にエラーメッセージが出力された場合は、以下の対処をしてください。

3.1.1 メッセージレベルが「警告」の場合

例) 標本データ変換画面で、CSV ファイルを選択し、文字コードを選択せずに「マッピング」ボタンをクリックすると、警告メッセージ「MW004:警告:文字コードを選択してください。」が出力されます。この場合、文字コードを選択して、「マッピング」ボタンをクリックしてください。
メッセージレベルが「警告」であれば、メッセージ内容に従い、再実行すれば処理は継続されます。

なお、次の原因で警告が出ることが現在までに報告されています。もし、状況が同じ場合は対応策により解決できます。

原因 1 : 拡張子が大文字（.CSV または.XLS）の入力ファイルで「MW003:警告:拡張子が「xlsx」、「csv」のファイルを選択してください」が表示される（Ver 1.12 以前のバージョンのデータ変換ツールで発生）。

【対応】

最新のデータ変換ツールをダウンロードして再実行してください。

原因 2 : 入力ファイルの項目名が S-Net 形式の項目名と異なる場合に警告メッセージ「MW020」が出力されることがあります。たとえば、「タイプ標本種別」の入力ファイル項目名に「type_info」を指定してマッピングを行ったとき、「Paratype」のような正しいタイプ標本種別を指定しても「MW020:警告:タイプ標本種別 正しい形式で入力してください。」というエラーがでます。（Ver 1.17 以前のバージョンのデータ変換ツールで発生）。

【対応】

最新のデータ変換ツールをダウンロードして再実行してください。

3.1.2 メッセージレベルが「エラー」の場合

エラーメッセージ「システム管理者に連絡してください。」が出力されましたら、動作環境の情報とエラーが発生したファイルを下記の連絡先まで、お送りください。

【本ツールについての連絡先】

独立行政法人国立科学博物館 S-Net/GBIF 担当

〒305-0005 茨城県つくば市天久保 4-1-1

E-mail : s-net_info [at] kahaku.go.jp ([at] を@に変えてください)

動作環境

- OS の種類 例: Windows
- OS のバージョン (ビット数含む) 例: 7 professional(64)
- メモリ容量 例: 8G
- Excel のバージョン
例: Microsoft Office Professional 2010 バージョン: 14.0.7214.5000(32 ビット)

なお、次の原因でエラーが起こることが現在までに報告されています。もし、状況が同じ場合は対応策により解決できます。

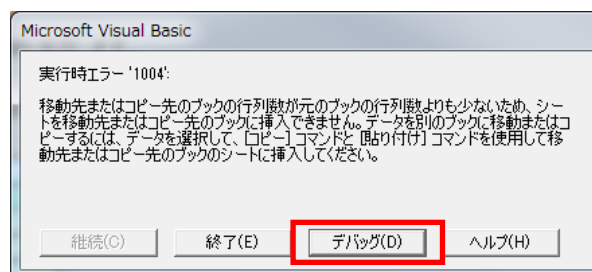
原因 1： 入力ファイルが Excel ブック形式 (.xlsx) でフィルタを使った絞り込みが行われている。

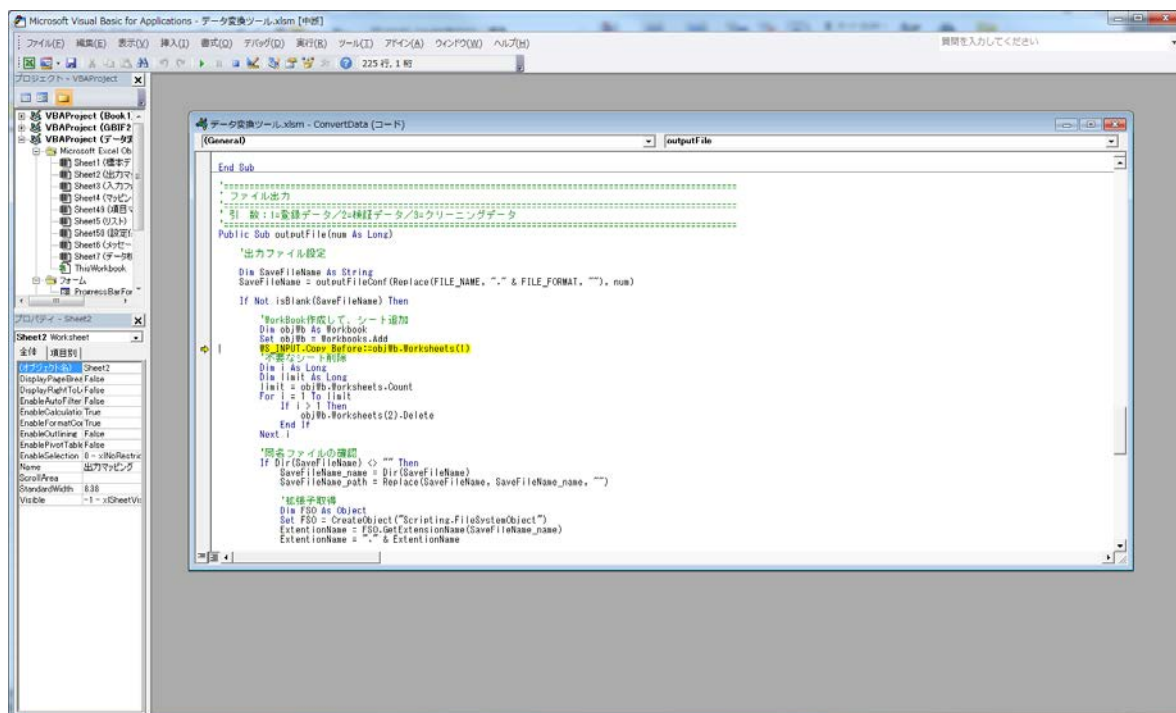
【対応】

Excel メニューの「並べ替えとフィルタ」から「クリア」を選択して、フィルタによる絞り込みを解除してください。

3.1.3 Visual Basic のエラーが発生した場合

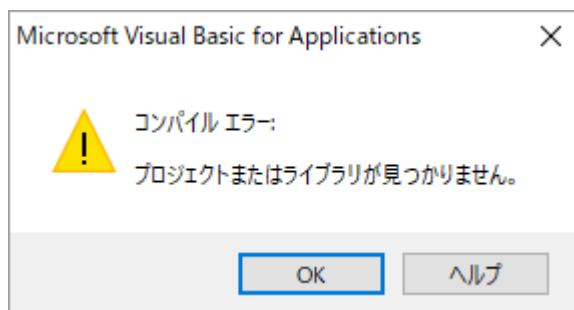
データ変換ツールは Microsoft Visual Basic というツールを使って開発されています。次のような Visual Basic のエラーメッセージが表示された場合は、「デバッグ」ボタンを選択し、表示された Visual Basic の画面のスクリーンショットを動作環境の情報とエラーの番号の情報とともに上記の連絡先まで、お送りください。

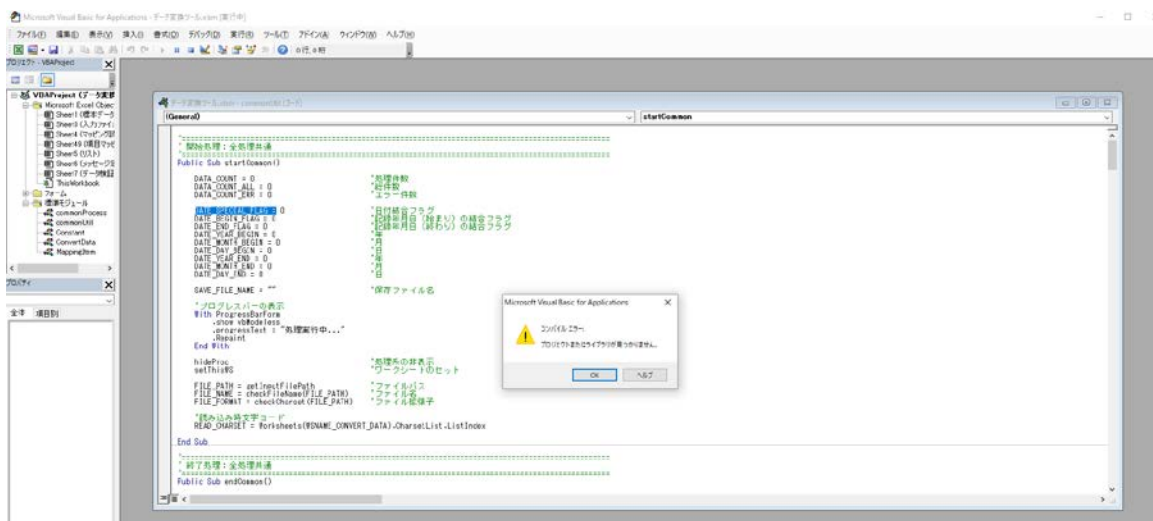




〔Alt〕 + 〔Print Screen/SysRq〕 キーを押せばアクティブな画面のスクリーンショットがクリップボードにコピーされますので、Microsoft Word や Excel に貼り付けてファイルをお送りください。

なお、Ver 1.10 以前のバージョンのデータ変換ツールをお使いの場合、動作環境によって次のような Visual Basic のコンパイルエラーが起きることが報告されています（データ変換ツールのバージョン情報は「標本データ変換」画面の右下にあります）。このエラーが起きる場合は、**最新のデータ変換ツールをダウンロードして再実行してください。**





標準データ変換

入力ファイル名

文字コード UTF-8

参照

マッピング

データクリーニング

データ検証

Ver 1.11

また、次の原因でも Visual Basic エラーが起こることが現在までに報告されています。もし、状況が同じ場合は対応策により解決できます。

原因 1： Excel のオプションで保存形式が「Excel97-2003 ブック (*.xls)」など Excel ブック (*.xlsx) 以外の形式が指定されている。

【対応】

オプションの保存形式を「Excel ブック (*.xlsx)」に変更してデータ変換ツールを実行してください。

3.1.4 その他のトラブル

状況 1： 入力ファイルに Mac 環境のファイルシステムで作成されるファイルを指定して「マッピング」を行うと、「ファイルが見つかりません」というエラーになることがあります（Ver 1.11 以前のバージョンのデータ変換ツールで発生）。

【対応】最新のデータ変換ツールをダウンロードして再実行してください。

4 その他

4.1 S-Net 形式のデータ項目について

S-Net システムで変換後に出力されるデータ項目は以下の通りです。

データ形式の「文字列・半」は半角英数字の文字列、「文字列・日」は日本語入力可の文字列です。

それぞれの項目のデータ形式と値を確認し、正しい値を入力してください。

また、レコード種別、界名など決められた文字列のどれかを指定するものは、大文字・小文字、全角・半角を区別して正確に入力するようにお願いします。

なお、すでに S-Net システムで公開されている機関やデータセットの情報は S-Net サイト (<http://science-net.kahaku.go.jp>) の「機関・データセット一覧」からご確認いただけます。

No	項目名	必須	データ形式	値
システム管理情報				
1.	管理 ID		整数	システム管理用項目
2.	登録日時		日時	システム管理用項目
3.	更新日時		日時	システム管理用項目
4.	データセット管理番号		文字列・半	システム管理用項目
5.	グローバルユニーク番号		文字列・半	システム管理用項目
基本情報				
6.	データ登録日時		日時	S-Net/GBIF 事務局管理用項目
7.	GBIF 公開フラグ ※原則として「1 : GBIF で公開する」を指定してください。GBIF での非公開を希望される場合は事務局にご相談ください。	○	論理（真偽）型	0 : GBIF で公開しない、1 : GBIF で公開する（既定値）
8.	レコード種別	○	文字列・半	PreservedSpecimen、FossilSpecimen、LivingSpecimen、HumanObservation、MachineObservation、MaterialSample、Occurrence のいずれか。大文字・小文字を区別して正確に入力
9.	機関名 ※S-Net サイトの機関情報を確認し、同じ英語の名称を大文字、小文字の区別を含め正しく指定してください。	○	文字列・半	機関名の英文名称（例：National Museum of Nature and Science）
10.	機関名（日本語） ※S-Net サイトの機関情報を確認し、同じ和文の名称を正しく指定してください。	○	文字列・日	機関名の和文名称（例：国立科学博物館（植物））
11.	機関コード ※S-Net サイトの機関情報を確認し、同じ機関コードを大文字、小文字の区別を含め正しく指定してください。	○	文字列・半	標本の機関コード（例：TNS、NMST、KPM）

12.	コレクションコード ※S-Net サイトのデータセット情報を確認し、同じコレクションコードを大文字、小文字の区別を含め正しく指定してください。	○	文字列・半	標本のコレクションコード（例：VS、F、AL）。コレクションコードが未設定の機関では、機関コードを入れる
13.	カタログ番号	○	文字列・半	標本番号（例：153801、A1-0027）
オカレンス情報				
14.	採集者番号		文字列・半	採集者によるオリジナルの標本番号
15.	オカレンス備考		文字列・半	標本等に関する補足説明（例：found dead on the road）
16.	オカレンス備考（日本語）		文字列・日	標本等に関する補足説明（例：路上轢死体）
17.	性別		文字列・半	例：male, female
18.	性別（日本語）		文字列・日	例：オス、メス、♂、♀
19.	生活型・世代型		文字列・半	個体のライフステージ（例：juvenile, adult, sporophyte）
20.	生活型・世代型（日本語）		文字列・日	例：幼虫、成虫、孢子体
21.	成熟状況		文字列・半	例：pregnant, in bloom, fruit-bearing
22.	成熟状況（日本語）		文字列・日	例：妊娠中、開花中、結実中
23.	行動		文字列・半	採集時の個体の振る舞い（例：roosting, foraging, running）
24.	行動（日本語）		文字列・日	例：ねぐらに滞在、摂食中、走っていた
25.	生息環境		文字列・半	例：oak savanna, pre-cordilleran steppe
26.	生息環境（日本語）		文字列・日	例：ブナ林、海岸林
27.	個体群成立過程		文字列・半	例：native, introduced, invasive, naturalised, managed
28.	個体群成立過程（日本語）		文字列・日	例：土着、外来、侵略的外来、帰化、栽培、植栽
29.	処理・保存情報		文字列・半	例：fossil, cast, skin, spirit collection
30.	処理・保存情報（日本語）		文字列・日	例：化石、皮革、骨格、液浸
31.	カタログ旧番号・別番号		文字列・半	標本番号をつけ直す場合、以前の標本番号
32.	画像への外部リンク		文字列・半	ウェブ公開されている当該標本の画像自体へのリンク（URL）。直接リンク可能な場合のみ入力
33.	参照リンク		文字列・半	ウェブ公開されている当該標本情報の英語ページへのリンク（URL）
34.	参照リンク（日本語）		文字列・半	ウェブ公開されている当該標本情報の日本語ページへのリンク（URL）
35.	文献		文字列・半	当該標本に関する文献などの外国語資料（当該種に関するものではない）
36.	文献（日本語）		文字列・日	当該標本に関する文献などの日本語資料（当該種に関するものではない）
37.	塩基配列		文字列・半	DNA シークエンスの DDBJ 等へのアクセッション番号

38.	関連分類群（ホスト情報等）		文字列・半	寄主や共生パートナーなどに関する情報（例：Fagus crenata）
39.	関連分類群（ホスト情報等） （日本語）		文字列・日	寄主や共生パートナーなどに関する情報（例：ブナ）
40.	過去の同定結果		文字列・半	過去の同定による学名
41.	過去の同定結果（日本語）		文字列・日	過去の同定による和名
42.	サンプリング方法		文字列・半	例：UV light trap, mist net
43.	サンプリング方法（日本語）		文字列・日	例：UV ライトトラップ、マレーズトラップ
44.	記録年月日（始め） ※変換元データの年月日が複数の項目に分かれている場合は、複数の項目を結合してマッピングすることもできます。			採集年月日（始め）を YYYYMMDD 形式の 8 桁で指定（例：20140501）。不明な箇所は**で埋めて 8 桁に（例：196708**）。ただし、年が不明の場合は月日も"*"に（例：*****）、月が不明の場合は日も"*"に（例：1924****）。採集期間が 1 日だけの場合、記録年月日（始め）に入れる
45.	記録年月日（終わり） ※変換元データの年月日が複数の項目に分かれている場合は、複数の項目を結合してマッピングすることもできます。			採集年月日（終わり）を YYYYMMDD 形式の 8 桁で指定（例：20140531）。不明な箇所は**で埋めて 8 桁に（例：196708**）。ただし、年が不明の場合は月日も"*"に（例：*****）、月が不明の場合は日も"*"に（例：1924****）
46.	記録年月日オリジナル表記		文字列・日	記録年月日をラベルに書いてある通りに書き下したもの（例：明治 26 年 1 月 23 日、1926 年 12 月、Feb 30, 1906）
47.	記録年月日に関する備考		文字列・半	年月日に関するコメント・特定方法等（例：after the recent rains the river is nearly at flood stage）
48.	記録年月日に関する備考（日本語）		文字列・日	年月日に関するコメント・特定方法等（例：宅地造成に先立って調査した）
位置情報				
49.	大陸		文字列・半	例：Africa, Antarctica, Asia, Oceania
50.	大陸（日本語）		文字列・日	例：アフリカ、南極、アジア、オセアニア
51.	水域		文字列・半	例：Indian Ocean, Baltic Sea, Hudson River
52.	水域（日本語）		文字列・日	例：インド洋、バルト海、ハドソン川
53.	島群		文字列・半	例：Alexander Archipelago
54.	島群（日本語）		文字列・日	例：アレキサンダー諸島
55.	島		文字列・半	例：Isla Victoria
56.	島（日本語）		文字列・日	例：ビクトリア島
57.	国		文字列・半	例：Japan
58.	国（日本語）		文字列・日	例：日本

59.	国地域コード		文字列・半	国名の ID。日本は JP。ISO 3166-1-alpha-2 country codes (http://www.iso.org/iso/country_codes) に従うことが推奨される (入力しなくてもいい)
60.	都道府県		文字列・半	例: Tokyo, Ibaraki, Kyoto
61.	都道府県 (日本語)		文字列・日	例: 東京都、茨城県、京都府
62.	郡・市区町村		文字列・半	例: Saimtama
63.	郡・市区町村 (日本語)		文字列・日	例: さいたま市
64.	詳細地名		文字列・半	
65.	詳細地名 (日本語)		文字列・日	例: 南区辻一丁目
66.	地名オリジナル表記		文字列・日	地名のラベル表記をそのまま書き下したもの (例: 浦和市辻町一丁目 (合併前の旧住所)、武蔵国)
67.	最低海拔		数値	メートル単位の数値 (例: 200, 2.25)。海拔に範囲がない場合、最低海拔だけに入れるか、最低海拔と最高海拔の両方に同じ値を入れる
68.	最高海拔		数値	メートル単位の数値 (例: 400, 10.2)。最低海拔 ≤ 最高海拔 となること
69.	最浅水深		数値	メートル単位の数値 (例: 10, 1.5)。- (マイナス) は付けない。水深に範囲がない場合、最浅水深だけを入れるか、最浅水深と最深水深に同じ値を入れる
70.	最深水深		数値	メートル単位の数値 (例: 20, 4.22)。- (マイナス) は付けない。最浅水深 ≤ 最深水深 となること
71.	メッシュコード		文字列・半	二次あるいは三次メッシュコード (ハイフンを除いて表記) (例: 544020, 54402078)
72.	緯度 (十進数表記)		数値	正の値は北半球 (北緯)、負の値は南半球 (南緯)。-90 以上 90 以下。度+分/60+秒/3600 で求められる。日本の場合、およそ 20~46 の範囲
73.	経度 (十進数表記)		数値	正の値は東半球 (東経)、負の値は西半球 (西経)。-180 以上、180 以下。度+分/60+秒/3600 で求められる。日本の場合、およそ 123~154 の範囲
74.	測地系 ※何も指定しないと GBIF では「WGS84」とみなされます。		文字列・半	例: WGS84, EPSG4326, Tokyo, Tokyo Datum。緯度・経度が旧測地系 (日本測地系) の場合は Tokyo または Tokyo Datum を指定
75.	緯度経度誤差半径		数値	緯度経度の誤差。誤差を中心からの円の大きさで表した時の半径 (m)

76.	緯度経度特定に関する備考		文字列・半	標本採集地、観測地やその測定方法に関する補足説明（例：assumed distance by road (Hwy. 101)）
77.	緯度経度特定に関する備考（日本語）		文字列・日	標本採集地、観測地やその測定方法に関する補足説明（例：国道の位置から推定；オンライン地図を利用して推定）
78.	地名公開レベル ※2020年6月現在システム上の都合により「0：住所情報は全て公開」以外は指定できません。	○	数値（コード）	0：住所情報は全て公開（既定値）、1：市区町村情報まで公開、2：都道府県情報まで公開、3：住所情報は全て非公開
79.	非公開情報に関する備考		文字列・半	公開制限している情報に関する追記（例：location information not given for endangered species）
80.	非公開情報に関する備考（日本語）		文字列・日	公開制限している情報に関する追記（例：絶滅危惧種につき地名非表示）
81.	位置情報に関する備考		文字列・半	例：Under water since 2005
82.	位置情報に関する備考（日本語）		文字列・日	例：2005 に水没
分類情報				
83.	タイプ標本種別		文字列・半	Allolectotype, Alloneotype, Allotype, Cotype, Epitype, Exepitype, Exholotype, Exisotype, Exlectotype, Exneotype, Exparatype, Exsyntype, Exttype, Hapantotype, Holotype, Iconotype, Isolectotype, Isonotype, Isosyntype, Isotype, Lectotype, Neotype, Notatype, Originalmaterial, Paralectotype, Paraneotype, Paratype, Plastoholotype, Plastoisotype, Plastolectotype, Plastoneotype, Plastoparatype, Plastosyntype, Plastotype, Secondarytype, Supplementarytype, Syntype, Topotype, Type のいずれか。大文字・小文字を区別して正確に入力
84.	タクソン ID ※変換ツールでは非表示の項目		文字列・半	当面使用しない
85.	学名	○	文字列・半	該当標本の学名のフルスペル。属も不明の場合は、同定できた一番下の階級（目名、科名など）を書く（例：Aspergillus oryzae、Fagus sp.、Cornaceae、Coleoptera、Anas zonorhyncha x A. platyrhynchos）。雑種式は半角小文字の x（エックス）を使用
86.	カテゴリー ※変換ツールでは非表示の項目		文字列・日	当面使用しない。

87.	界名（学名）	○	文字列・半	Viruses、Bacteria、Archaea、Protozoa、Chromista、Plantae、Fungi、Animalia のいずれか。大文字・小文字を区別して正確に入力
88.	界名（日本語名）	○	文字列・日	ウイルス界、真正細菌界、古細菌界、原生生物界、クロミスタ界、植物界、菌界、動物界のいずれか。全角文字で正確に入力
89.	門名（学名）		文字列・半	
90.	門名（日本語名）		文字列・日	
91.	綱名（学名）		文字列・半	
92.	綱名（日本語名）		文字列・日	
93.	目名（学名）		文字列・半	
94.	目名（日本語名）		文字列・日	
95.	科名（学名）		文字列・半	
96.	科名（日本語名）		文字列・日	
97.	属名（学名）		文字列・半	
98.	属名（日本語名）		文字列・日	
99.	亜属名（学名）		文字列・半	
100.	亜属名（日本語名）		文字列・日	
101.	種小名		文字列・半	
102.	亜種以下のタクソン		文字列・半	亜種、変種、品種などの学名。ランク自体（subspecies, variety 等）は「分類群ランク」に書く。複数ある場合には最も下位のランクを書く。
103.	分類群ランク		文字列・半	学名 ScientificName に入力された分類群名の分類ランク（例：family, species, variety）
104.	学名の著者		文字列・半	学名の著者
105.	和名		文字列・日	標準和名をひとつだけ示す（例：ベニテングタケ、ナナホシキンカメムシ、イヌブナ、カルガモ×マガモ）。雑種式は全角の×（掛け算記号）を使用
106.	同定に関する補足情報		文字列・半	未同定の場合、近縁種等の情報を書く（例：cf., affinis）
107.	同定に関する補足情報（日本語）		文字列・日	未同定の場合、近縁種等の情報を書く（例：チャハマキに近縁な別種）
108.	分類群に関する備考		文字列・半	生物分類名に関する補足情報（例：this name is a misspelling in common use）
109.	分類群に関する備考（日本語） ※和名の別名や異名はこの項目に記述		文字列・日	生物分類名に関する補足情報（例：広く使われている誤った綴りの学名）
参考情報				
110.	備考 1（公開,日本語）		文字列・日	上記に適切な項目のない補足的情報
非公開情報				

111.	備考 2 (非公開,日本語)		文字列・日	公開しないが、データ変換後、データ保守・管理上、項目として残しておきたいものを記載（例：ローカル I D、受入 I D、参照番号など）
112.	備考 3 (非公開,日本語)		文字列・日	同上
113.	採集・記録者(非公開) ※変換ツールでは非表示の項目			データ提供者は入力不要
114.	採集・記録者（非公開,日本語） ※変換ツールでは非表示の項目			データ提供者は入力不要
115.	水域(非公開) ※変換ツールでは非表示の項目			データ提供者は入力不要
116.	水域（非公開,日本語） ※変換ツールでは非表示の項目			データ提供者は入力不要
117.	島群（非公開） ※変換ツールでは非表示の項目			データ提供者は入力不要
118.	島群（非公開,日本語） ※変換ツールでは非表示の項目			データ提供者は入力不要
119.	島（非公開） ※変換ツールでは非表示の項目			データ提供者は入力不要
120.	島（非公開,日本語） ※変換ツールでは非表示の項目			データ提供者は入力不要
121.	郡・市区町村（非公開） ※変換ツールでは非表示の項目			データ提供者は入力不要
122.	郡・市区町村（非公開,日本語） ※変換ツールでは非表示の項目			データ提供者は入力不要
123.	詳細地名(非公開) ※変換ツールでは非表示の項目			データ提供者は入力不要
124.	詳細地名(非公開)（日本語） ※変換ツールでは非表示の項目			データ提供者は入力不要
125.	地名オリジナル表記(非公開) ※変換ツールでは非表示の項目			データ提供者は入力不要
126.	最低海拔（非公開） ※変換ツールでは非表示の項目			データ提供者は入力不要
127.	最高海拔（非公開） ※変換ツールでは非表示の項目			データ提供者は入力不要
128.	最浅水深（非公開） ※変換ツールでは非表示の項目			データ提供者は入力不要
129.	最深水深（非公開） ※変換ツールでは非表示の項目			データ提供者は入力不要
130.	メッシュコード（非公開） ※変換ツールでは非表示の項目			データ提供者は入力不要
131.	緯度（十進数表記）（非公開） ※変換ツールでは非表示の項目			データ提供者は入力不要

132.	経度（十進数表記）（非公開） ※変換ツールでは非表示の項目			データ提供者は入力不要
古生物情報				
133.	上限の推定年代（累代・累界レベル）		文字列・半	例：Phanerozoic, Proterozoic
134.	上限の推定年代（累代・累界レベル）（日本語）		文字列・日	例：顕生代、原生代
135.	下限の推定年代（累代・累界レベル）		文字列・半	例：Phanerozoic, Proterozoic
136.	下限の推定年代（累代・累界レベル）（日本語）		文字列・日	例：顕生代、原生代
137.	上限の推定年代（代・界レベル）		文字列・半	例：Cenozoic, Mesozoic
138.	上限の推定年代（代・界レベル）（日本語）		文字列・日	例：新生代、中生代
139.	下限の推定年代（代・界レベル）		文字列・半	例：Cenozoic, Mesozoic
140.	下限の推定年代（代・界レベル）（日本語）		文字列・日	例：新生代、中生代
141.	上限の推定年代（紀・系レベル）		文字列・半	例：Neogene, Tertiary, Quaternary
142.	上限の推定年代（紀・系レベル）（日本語）		文字列・日	例：新第三紀、第三紀、第四紀
143.	下限の推定年代（紀・系レベル）		文字列・半	例：Neogene, Tertiary, Quaternary
144.	下限の推定年代（紀・系レベル）（日本語）		文字列・日	例：新第三紀、第三紀、第四紀
145.	上限の推定年代（世・統レベル）		文字列・半	例：Holocene, Pleistocene, Ibexian Series
146.	上限の推定年代（世・統レベル）（日本語）		文字列・日	例：完新世、更新世
147.	下限の推定年代（世・統レベル）		文字列・半	例：Holocene, Pleistocene, Ibexian Series
148.	下限の推定年代（世・統レベル）（日本語）		文字列・日	例：完新世、更新世
149.	上限の推定年代（階・期レベル）		文字列・半	例：Atlantic, Boreal, Skullrockian
150.	上限の推定年代（階・期レベル）（日本語）		文字列・日	
151.	下限の推定年代（階・期レベル）		文字列・半	例：Atlantic, Boreal, Skullrockian

152.	下限の推定年代（階・期レベル）（日本語）		文字列・日	
153.	生層序帯（最下位）		文字列・半	
154.	生層序帯（最下位）（日本語）		文字列・日	
155.	生層序帯（最上位）		文字列・半	
156.	生層序帯（最上位）（日本語）		文字列・日	
157.	岩相層序名		文字列・半	
158.	岩相層序名（日本語）		文字列・日	
159.	層群		文字列・半	
160.	層群（日本語）		文字列・日	
161.	層		文字列・半	例：Notch Peak Formation, House Limestone, Fillmore Formation
162.	層（日本語）		文字列・日	
163.	部層		文字列・半	例：Lava Dam Member, Hellnmaria Member
164.	部層（日本語）		文字列・日	
165.	単層		文字列・半	
166.	単層（日本語）		文字列・日	
命名情報				
167.	オリジナルの学名		文字列・半	標本の学名に変更があった場合の元の学名
168.	原記載		文字列・半	原記載の文献情報（例：Pearson O. P., and M. I. Christie. 1985. Historia Natural, 5(37): 388）
169.	原記載出版年		文字列・半	例：1931、2018
170.	オリジナルの分類群ランク		文字列・半	原記載における学名の分類ランク（例：species, variety）
171.	命名規約		文字列・半	学名が基づいている命名規約（例：ICN、ICZN）
172.	分類学的ステータス		文字列・半	学名の分類学的解釈における扱い（例：accepted, heterotypicSynonym, misapplied）
173.	命名規約上のステータス		文字列・半	学名の命名規約上の扱い（例：ambigua, illegitimum）